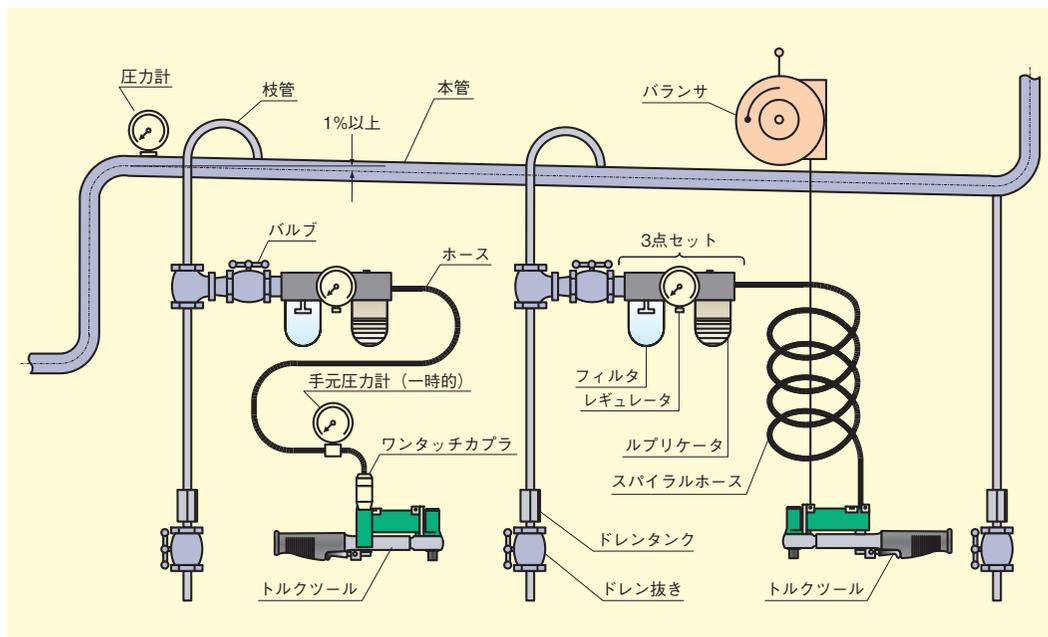


# 正しい配管、準備作業、予備知識は、東日動力式トルクツールの能力を最大限に生かします。



## ■上手な配管

空圧機器の故障の多くは、圧縮空気の状態が悪いために生じます。配管を十分に太くし、3点セット（フィルタ、レギュレータ、ルブリケータ）を必ずご使用ください。

### ●上手な配管とは

#### 1. 圧力を下げない

空圧機器は手元圧力が規定だけ必要です。本管・枝管・ホースの内径は十分に太くし、長さできるだけ短くしてください。3点セット・弁・継ぎ手も流量に合ったものを取り付けてください。配管系での圧力損失は0.1MPa以下にしてください。

#### 2. ドレン・異物を入れない

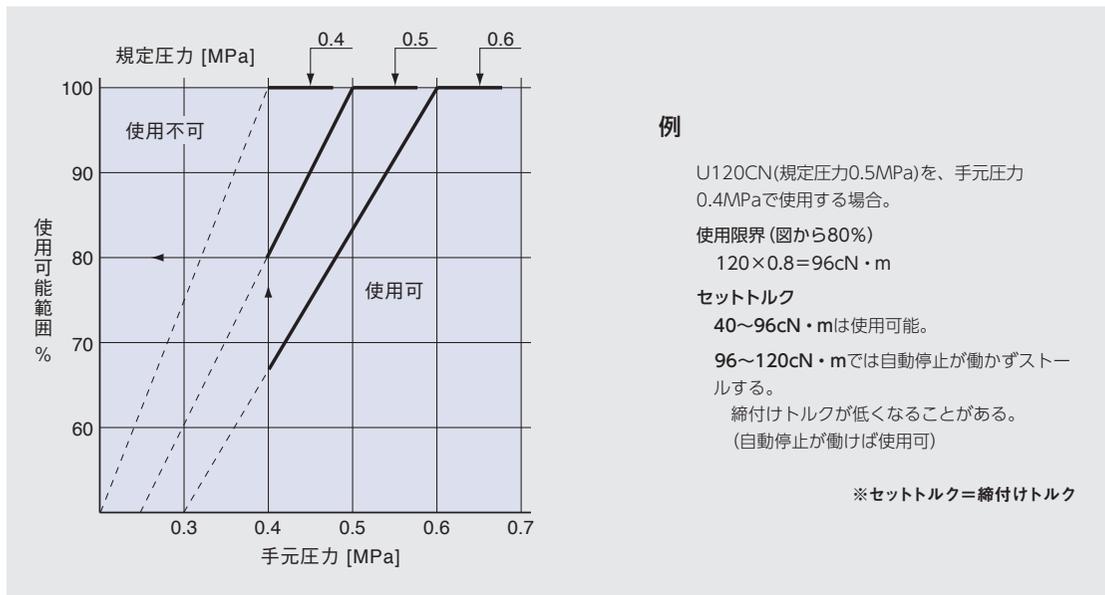
圧縮空気は本質的に水分を含んでいます。アフタークーラなどで水分を抜き、配管中にたまったドレンが空圧機器に入らないように配管は1%以上の勾配を付けてください。枝管も本管の上側から取り出してください。本管の最低部や各枝管にはドレンタンク、ドレン抜きを取り付けてください。最初に配管を空圧機器に接続する前、必ず空ぶかしをして異物を排出してください。

#### 3. 油を入れる

動力式トルクツールのエアモータは、毎分10,000回転しています。必ずルブリケータで給油してください。油はISO VG32(タービン油#90)を用いてください。1週間以上使用しない時には、ワンタッチカプラを外して油を約10滴流し込み、1度軽く回転させ、モータ部に十分油を入れて錆を防いでください。

## ■空気圧力と使用範囲

東日製動力式トルクツールは、圧力が規定圧よりも低い場合、使用可能なトルクセット範囲が限定されます（下図参照）。必ず規定圧でご使用ください。使用可能なトルクセット範囲内であれば、空気圧によって締付けトルクは変化しません。



## メモ

1. 手元圧力が0.4MPa以下での使用では弁の作動が不確実になります。
2. 半自動エアトルクの使用範囲は圧力に関係しません。
3. 手元圧力が低い時は、一段大型の機種を用いてください。